



一般市民を対象とした普及啓発の開発と実践

研究代表者： 白阪 琢磨（国立病院機構大阪医療センター
HIV/AIDS 先端医療開発センター）

研究協力者： 山崎 厚司（公益財団法人エイズ予防財団）
辻 宏幸（公益財団法人エイズ予防財団、国立病院機構大阪医療センター
HIV/AIDS 先端医療開発センター）

研究要旨

1981年に米国で最初のエイズ患者が報告されて以来、エイズは世界中に広がり、多くの国々に深刻な影響を与えてきた。わが国においても1985年3月に最初の症例の報告がなされると、無知とセンセーショナルな報道から、いわゆるエイズパニック現象が起こり、差別や偏見が瞬く間に広がっていった。この30年余の間、正しい知識の普及啓発、検査・診療体制の充実、研究の推進など種々の施策が採られ、特に治療の分野では著しい進歩を遂げている。にもかかわらず、一時の過剰な報道とその後の無関心から、国民のエイズに対する意識はパニック当時のままに止まっている。本研究では、HIV感染症・エイズに対する国民の意識・知識の状況を把握し、エイズに関する知識のアップデートとイメージを変えるために効果的な啓発の開発とその実践を行うことを目指し、次の取り組みを行った。1) HIV感染症に関する国民の知識の状況の調査(2回実施)、2) 効果的啓発手法の開発と実践、3) 地域におけるマルチセクター連携による啓発の実施。

調査の結果、①エイズに対するイメージとして、「死の病である」を選んだ者1回目2741人48.4%、2回目2377人42.0%、「原因不明で治療法がない」1568人27.7%、1418人25.0%、②適切な治療は他への感染リスクを減らすことを知っていた者は1回目39.6%、2回目38.7%など最新情報の認知は低い、③男女による意識・知識の差は無い、④年齢が低いほど偏見が小さいことが分かった。これらのことから、若年層に向けてYouTubeを使った正しい知識の普及を、中・高年層に向けて知識のアップデートを目的としたメッセージの発信を行うこととした。また、啓発の実践として、世界エイズデー・キャンペーン「大阪 AIDS WEEKS」を実施、大阪府民を中心とした近畿圏在住者に対して情報発信や啓発資材配布を行った。

研究目的

平成30年3月内閣府政府広報室から発表された「HIV感染症・エイズに関する世論調査」によると、エイズの印象として、『死に至る病である』52.1%、『原因不明で治療法がない』33.6%など、過去のイメージのままの者が多数存在することが分かる。平成30年1月18日に改正された、後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針に記された「対象者の実情に応じて正確な情報と知識を、分かりやすい内容と効果的な媒体により提供する取組を強化する」に資するため、効果的な普及啓発手法の開発とその実践を行うことを目的とした。

研究方法

1) HIV感染症に関する国民の知識の状況の調査

目的：効果的な普及啓発手法の開発に当たり、HIV感染症に関する意識調査を行い、国民の知識の状況を把握する。

対象：大阪府在住一般市民、年齢5歳階級各515人、計5,665人

方法：マクロミル社のモニターパネルを利用しインターネット調査を行った。調査内容は「HIV/エイズに関する4万人の意識調査」（平成17年、gooリサーチ）から選定、改編した。なお、この調査は平成12年に実施された世論調査をベースにしている。

調査は初年度と最終年度の2回実施する。
実施時期：第1回 2019年1月31日～2月2日、第2回 2020年12月17日～20日

2) 効果的啓発手法の開発と実践

目的：1) の意識調査により把握された、啓発すべき内容、対象等に応じた、効果的啓発手法を検討し、実践する。

3) 地域におけるマルチセクター連携による啓発の実施

価値観が多様化し、さらに様々な情報発信ツール、メディアが発生・発達した現在において、HIV感染症・エイズに対するイメージを変え、行動の変化を促すには、行政などが単独で啓発を行うのではなく、複数のセクターが一体となって活動することが効果的であるとの観点から以下の取り組みを行った。

世界エイズデー・キャンペーン「大阪 AIDS WEEKS」

12月1日の世界エイズデーに合わせて、前後の期間を「大阪エイズウィークス」として、エイズに関連したジャンルで活動する団体・グループ・個人が、自治体・企業・メディア等と連携しながら、気軽に参加できるものから深く学べるものまで様々なイベントや企画を運営し、市民のエイズへの関心を高め、感染拡大を防ぐとともに、感染した人々も安心して暮らせる社会の実現を目指すこととした。

公益財団法人エイズ予防財団の呼びかけに賛同した団体・グループ・個人・企業が、それぞれ（または協働して）得意分野でそれぞれの対象者に焦点を当てた企画を実施した。自治体を実施するエイズ予防週間の取り組みも合わせて広く市民に対して広報を展開し、各団体・グループ・個人・企業の広報でも情報提供を行った。

参加団体の情報共有、企画・広報調整のための連絡会をほぼ毎月1回のペースで開催した。エイズ予防財団大阪事務所が連絡会の事務局を担い、参加企画のとりまとめや広報などを行った。

(倫理面への配慮)

インターネット調査の手法は個人が特定されることはなく、内容にも個人が特定され得る臨床情報や写真などを含まないため、「人を対象とする医学系研

究に関する倫理指針」の対象外である。啓発資料の制作にあたっては、HIV陽性者を含む、目にしたすべての人に不快感を与えない内容とするよう配慮した。

研究結果

1) HIV感染症に関する国民の知識の状況の調査

過去に実施された同様の調査を抽出し、内容を把握するとともに、比較可能な調査、調査項目を検討した。抽出した調査は次のとおりである。

- ①「エイズに関する世論調査」；内閣府
 - ・昭和62年5月、全国20歳以上の者7,971人
 - ・平成3年5月、全国20歳以上の者7,639人
 - ・平成7年5月、全国20歳以上の者7,347人
 - ・平成12年12月、全国15歳以上の者3,483人、調査員による面接聴取
 - ・平成30年1月、全国18歳以上の者1,671人、調査員による個別面接聴取
- ②「HIV／エイズに関する4万人の意識調査」；gooリサーチ、平成17年11月、gooリサーチモニター・一般回答者38,474人、gooリサーチを利用したWebアンケート調査
- ③「HIV・エイズに関する意識調査」；YAHOO!リサーチ、平成18年11月、Yahoo!リサーチモニター1,337人、プレ調査回答者で本調査への回答受諾者
- ④「エイズ予防のための戦略研究 都市在住者を対象とした HIV 新規感染者及び AIDS 発症者を減少させるための効果的な広報戦略の開発（研究リーダー：木原正博）形成調査」；平成19年度検討の結果、「HIV／エイズに関する4万人の意識調査」が平成12年世論調査をベースに、インターネットを利用して実施されていることが判明したため、二つの調査との比較をも念頭に調査項目を設定、大阪府在住一般市民、年齢5歳階級各515人、計5,665人を対象とし、2019年1月31日～2月2日及び2020年12月17日～20日にインターネット調査を実施した。

調査結果（単純集計）は表1のとおりで、啓発手法開発のための検討結果は次のとおりである。

①性別による意識・知識の差

HIVとエイズの違いを知っているかの設問では、知っている、なんとなく知っていると答えた者の割合は男54.4%、女54.7%（2019年男57.6%、女56.9%）と、差は見られなかった（図1）。また、感

染経路に関する設問において、男性の方が正答率が高いと期待される選択肢「患者や感染者とカミソリを共用する」、女性の方が正答率が高いと期待される選択肢「患者や感染者からの授乳や出産」を選んだ者の割合に大きな差が見られなかった。これらのことから、性別による意識・知識の差はないと思われる。



図 1 男女による意識・知識の差

②年齢による意識・知識の差

HIV とエイズの違いを知っているかの設問では、知っている、なんとなく知っていると答えた者の割合は 15～19 歳では 78.4%（2019 年 72.2%）であったのに対し 65 歳以上では 39.6%（2019 年 41.4%）であった。また、一緒に働く・学ぶことに対する意識について、受け入れられる、どちらかといえば受け入れられると答えた者の割合は 15～19 歳の 76.8%（2019 年 79.0%）に対し 65 歳以上では 56.1%（2019 年 54.4%）であった（図 2、3）。

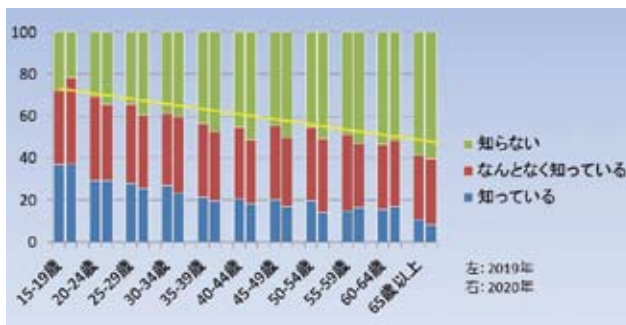


図 2 年齢による意識・知識の差
HIV とエイズの違い

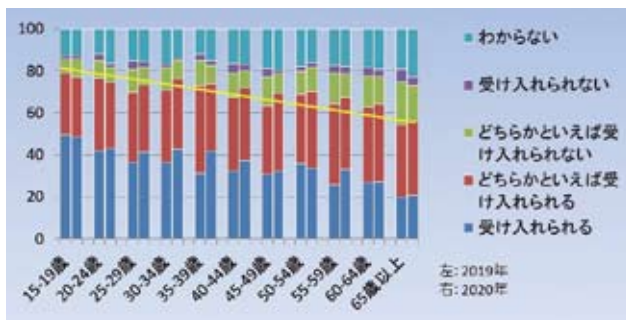


図 3 年齢による意識・知識の差
一緒に働く、学ぶことに対する意識

これらから、中高年層においては正しい知識の更新が行われておらず、それにより偏見が続いていることが推測された。

③ HIV / エイズ情報への接触

ここ 2 年間に HIV / エイズに関する情報に接したかの設問では、920 人、16.2%が接したまたは接したと思うと回答し、HIV に関する情報提供の少ないことが分かった（図 4）。接した媒体では、15～19 歳で学校の授業が 82.8%と高く、高校の授業が反映されているものと思われる。

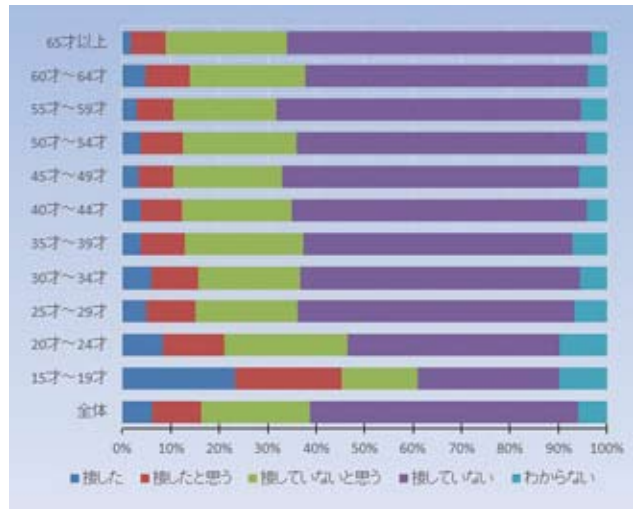


図 4 ここ 2 年間に HIV/ エイズに関する情報に接したか。

④ HIV 検査について

HIV 検査を受けたことがある者は 10.8%（男 9.9%、女 11.5%）であった。検査を受けない理由としては、感染しているとは思わないが半数以上であった。どうしたら HIV 検査が受けやすくなるかという設問について、すぐに結果が分かる、検査料金が安いまたは無料、健康診断の一部として選べるなどの回答が多かった。保健所の無料匿名即日検査の情報が周知されていないことが推測される。

2) 効果的啓発手法の開発と実践

意識調査を基に、若年層向けと全世代向けの二つに分けた啓発を実践することを計画した。作製、配付した資材は表 2 のとおり。

表 2

	種類・名称	作製配布数
2018 年度	大阪エイズウィークス 2018 パンフレット	15,000
	大阪エイズウィークス 2018 ポスター	1,000
	啓発用クリアファイルバッグ	7,000

2019年度	大阪エイズウィークス 2019 パンフレット	15,000
	大阪エイズウィークス 2019 ポスター	1,000
	啓発用クリアファイルバッグ	2,000
	啓発メッセージ付き使い捨てカイロ	2,000
	啓発メッセージ付きウェットティッシュ	35,000
2020年度	大阪エイズウィークス 2020 パンフレット	10,000
	大阪エイズウィークス 2020 ポスター	1,000
	啓発用リーフレット	15,000
	啓発用チラシ	90,000

①若年層向け啓発

30歳以下の利用率が80%を超えているとされているYouTubeでの配信を目的とした動画を作成、配信した。

作成にあたっては、(1)1編あたり5分以内、(2)キャラクターによる進行、若手俳優の起用など親しみやすさ、(3)必要最小限の情報に絞り込むなど分かりやすさ、(4)専門家による解説による信頼性、正確性の確保、(5)タイトルの工夫、キャラクターなど話題性、インパクトなどに留意した(図5)。



図5 YouTube 動画サムネール

・「考えよう！身近な HIV・エイズの話」

第1話「エイズって何？」(3分44秒)

第2話「感染ルートと予防法を知ろう」(3分05秒)

第3話「HIV陽性者の日常」(6分03秒)

第4話「HIV・エイズの復習をしよう」(3分47秒)、2019年12月23日配信開始

・「赤リボンちゃんがやってきた 大阪 HIV 検査編」

HIV検査と検査センター chotCAST の紹介(5分57秒)、2020年12月22日配信開始

・「赤リボンちゃんがやってきた 大阪予防啓発編」

コミュニティセンター dista の紹介と啓発イベント参加への奨励(5分28秒)、2020年12月22日配信開始

②全世代向け啓発

全世代、特に中・高年層に向けて知識のアップデートを目的としたメッセージを発信するため以下を実施した。

施した。

(1) 啓発メッセージ付きオリジナルウェットティッシュの配付

世界エイズデーキャンペーンテーマ“UPDATE”を用いた、アップデートされた内容を表すピクトグラムを利用し、啓発メッセージ付きオリジナルウェットティッシュを作成、配付した(図6)。使用の都度開閉するフラップ式ラベルに、単純化したイラスト、短く分かりやすいメッセージを印刷することで、反復接触効果が期待される。イベントでの配付のほか、新型コロナ流行により、対面での配布ができなくなったため、リーフレットとともにポスティング配布を行った。



図6 啓発メッセージ付きオリジナルウェットティッシュ

(2) メッセージ、最新知識を記したチラシの配付

世界エイズデーイベントの案内チラシにエイズに関する情報を記しポスティングした。

配布エリア：①大阪市北区、②阿倍野区

配布数：① 50,000 枚、② 40,000 枚

配布期間：2020年11月13日～18日

(3) 映画「ボヘミアン・ラブソディ」上映会とトーク

エイズで死亡したフレディ・マーキュリーの伝記映画「ボヘミアン・ラブソディ」を題材に、HIV/AIDSの現状等、特に現在では死の病ではないことを伝えた。

日時：2019年12月13日(金)18:00～21:00

場所：大阪市北区 HEP HALL

3) 地域におけるマルチセクター連携による啓発の実施

世界エイズデー・キャンペーン「大阪 AIDS WEEKS」

20を超える団体や個人、店舗等の参加・協力のも

と12月1日の世界エイズデーに合わせて、前後の期間を「大阪エイズウィークス」として、11月～12月の2ヵ月間、様々な取り組みが展開された。

全体広報のために、パンフレット、ポスターを作成し、参加団体や関連協力店舗、近畿の拠点病院、保健所設置自治体等に送付した。また公式ページに全実施企画を掲載し、さらにFacebookとTwitterを通じて、情報の拡散に務めた。

参加団体等のイベントやキャンペーンにより、大阪府民を中心とした近畿圏在住者に対して情報発信や啓発資材配布を行った。

キャンペーンの実施による効果を直接的に測ることは難しいが、多くの個人・団体・企業の協力の下、様々なイベントや企画が実施され、啓発の機会を提供することができた。

考察

意識調査の結果、50%近くの者がエイズに対して「死に至る病」という印象をもっていること、性別による意識・知識の差はないことが分かった。また、年齢別では、若年層ほど正確な知識を持っており、HIV/AIDSに対する差別・偏見意識が低いこと、中高年層では知識が不足していること、差別・偏見を強く持っていることが分かった。さらに、HIV・エ

イズに関する情報に触れる機会の少ないこと、高校の授業では取り上げられていることが分かった。

HIV検査について、保健所の無料匿名即日検査の情報が周知されていないことが推測された。

エイズに対する偏見や差別を解消し、予防行動や検査受検を促進するためにも啓発による知識のアップデートが必要であると考えられる。

結論

HIV・エイズに関する情報に触れる機会は少なく、多くの国民のエイズに対する意識はエイズパニック当時のままに止まっているものと考えられる。エイズに関する知識のアップデートとイメージを変えるために効果的な啓発の開発とその実践が必要である。

健康危険情報

該当なし

研究発表

該当なし

知的財産権の出願・取得状況

該当なし



図7 大阪エイズウィークス2018 リーフレット表紙



図8 大阪エイズウィークス2019 ポスター

表 1

Q1	あなたは、HIVとエイズの違いについて知っていますか。 単一回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	知っている	1,257	22.2	1,170	20.7
2	何となく知っている	1,981	35.0	1,922	33.9
3	知らない	2,427	42.8	2,573	45.4
	全体	5,665	100.0	5,665	100.0

Q2	あなたは、HIVやエイズについてどの程度関心がありますか。 単一回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	非常に関心がある	535	9.4	440	7.8
2	やや関心がある	2,585	45.6	2,467	43.5
3	あまり関心がない	2,148	37.9	2,294	40.5
4	全く関心がない	397	7.0	464	8.2
	全体	5,665	100.0	5,665	100.0

Q3	日本において、2017年/2019年の1年間にHIVに感染していたことがわかった人は、どれくらいでしょうか。単一回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	約14,000人/12,500人	1,521	26.8	1,257	22.2
2	約1,400人/1,250人	1,341	23.7	1,238	21.9
3	約140人/120人	291	5.1	288	5.1
4	約40人	58	1.0	64	1.1
5	わからない	2,454	43.3	2,818	49.7
	全体	5,665	100	5,665	100.0

Q4	HIVやエイズの感染経路として該当すると思うものをすべてお選びください。 複数回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	患者や感染者の咳やくしゃみを吸い込む	336	5.9	389	6.9
2	患者や感染者と職場や学校で一緒に過ごす	63	1.1	61	1.1
3	患者や感染者とキスをする	1,628	28.7	1,893	33.4
4	患者や感染者との性行為	5,189	91.6	5,099	90.0
5	患者や感染者と風呂、トイレを共用する	388	6.8	434	7.7
6	患者や感染者とカミソリを共用する	2,971	52.4	2,621	46.3
7	患者や感染者からの輸血や、注射器の共用	4,587	81.0	4,333	76.5
8	患者や感染者を刺した蚊に刺される	1,552	27.4	1,325	23.4
9	患者や感染者と同じ鍋や皿をつつく	171	3.0	222	3.9
10	患者や感染者からの授乳や出産	2,772	48.9	2,430	42.9
11	わからない・あてはまるものはない	251	4.4	324	5.7
	全体	5,665	100.0	5,665	100.0

Q5	あなたは、クラミジアや淋病、梅毒などの性感染症にかかると、HIVに感染しやすいことを知っていますか。単一回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	知っている	678	12.0	660	11.7
2	何となく知っている	1,658	29.3	1,753	30.9
3	知らない	3,329	58.8	3,252	57.4
	全体	5,665	100.0	5,665	100.0

Q6	あなた自身が、今後HIVに感染する不安がありますか。あてはまるものを1つお選びください。 単一回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	大変不安がある	235	4.1	219	3.9
2	やや不安がある	1,062	18.7	1,050	18.5
3	あまり不安はない	2,462	43.5	2,528	44.6
4	全く不安はない	1,423	25.1	1,315	23.2
5	わからない	483	8.5	553	9.8
	全体	5,665	100.0	5,665	100.0

Q7	前問で不安があると答えた方にお聞きします。 HIVに感染する不安があると思う理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。 複数回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	HIV感染者やエイズ患者が増加しているから	624	48.1	414	32.6
2	身近にHIV感染者やエイズ患者がいるから	48	3.7	37	2.9
3	ウイルスによって広く感染する病気であるから	210	16.2	214	16.9
4	ワクチンなど予防薬が開発されていないから	341	26.3	348	27.4
5	HIV感染の予防方法が確立していないから	309	23.8	321	25.3
6	誰でも感染する可能性がある病気であるから	723	55.7	703	55.4
7	HIV感染の予防知識が乏しいから	378	29.1	428	33.7
8	政府や自治体の予防対策が十分とられていないから	171	13.2	131	10.3
9	予防をしようと思わないから	35	2.7	20	1.6
10	その他【 】	23	1.8	27	2.1
11	特に理由はない	65	5.0	79	6.2
	全体	1,297	100.0	1,269	100.0

Q8	前問で不安はないと答えた方にお聞きします。 HIVに感染する不安はないと思う理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。 複数回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	HIV感染者やエイズ患者があまり増加していないと思うから	74	1.9	174	4.5
2	身近にHIV感染者やエイズ患者がいないから	2,140	55.1	2,115	55
3	感染力が弱い病気であるから	200	5.1	212	5.5
4	治療薬が開発されているから	239	6.2	379	9.9
5	HIV感染の予防方法が確立しているから	239	6.2	326	8.5
6	特定の人々の病気だと思うから	535	13.8	470	12.2
7	HIV感染の予防知識があり、実施しているから	413	10.6	411	10.7
8	政府や自治体の予防対策が十分とられているから	57	1.5	74	1.9
9	その他【 】	206	5.3	221	5.8
10	特に理由はない	805	20.7	758	19.7
	全体	3,885	100.0	3,843	100.0

Q9	「HIV感染者やエイズ患者に対する社会的偏見や差別があってはならない」という考え方についてあなたはどのように感じますか。あてはまるものを1つお選びください。単一回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	同感する	1,881	33.2	2,328	41.1
2	どちらかといえば同感する	2,566	45.3	2,380	42
3	どちらかといえば同感しない	431	7.6	265	4.7
4	同感しない	121	2.1	77	1.4
5	その他【 】	30	0.5	18	0.3
6	わからない	636	11.2	597	10.5
	全体	5,665	100.0	5,665	100.0

Q10	もし、あなたの身近な人や友人がHIVに感染したら、あなたはどのように思いますか。あてはまるものを1つお選びください。単一回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	従来と同様の付き合いをする	3,195	56.4	3,328	58.7
2	付き合いを減らす	859	15.2	743	13.1
3	付き合いをやめる	208	3.7	206	3.6
4	その他【 】	62	1.1	49	0.9
5	わからない	1,341	23.7	1,339	23.6
	全体	5,665	100.0	5,665	100.0

Q11	もしあなたの職場(学校)で、HIV感染者やエイズ患者と一緒に働く(学ぶ)ことになったら、あなたは受け入れられますか。あてはまるものを1つお選びください。単一回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	受け入れられる	1,890	33.4	2,068	36.5
2	どちらかといえば受け入れられる	1,971	34.8	1,916	33.8
3	どちらかといえば受け入れられない	692	12.2	580	10.2
4	受け入れられない	193	3.4	139	2.5
5	わからない	919	16.2	962	17.0
	全体	5,665	100.0	5,665	100.0

Q12	前問で受け入れられると答えた方にお聞きます。受け入れられると思う理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。複数回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	働く(学ぶ)権利があると思うから	2,315	60	2,412	60.5
2	差別はよくないと思うから	1,864	48.3	2,115	53.1
3	感染する可能性が少ないと思うから	1,692	43.8	1,790	44.9
4	気にならないから	660	17.1	729	18.3
5	その他【 】	57	1.5	63	1.6
6	特に理由はない	71	1.8	89	2.2
	全体	3,861	100.0	3,984	100.0

Q13	前問で受け入れられないと答えた方にお聞きます。受け入れられないと思う理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。複数回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	気遣いが必要になると思うから	418	47.2	299	41.6
2	負担が増えると思うから	179	20.2	172	23.9
3	感染する可能性があるから	474	53.6	421	58.6
4	職場(学習)環境に影響がでるから	164	18.5	128	17.8
5	受け入れ態勢が整っていないから	251	28.4	185	25.7
6	その他【 】	15	1.7	10	1.4
7	特に理由はない	29	3.3	26	3.6
	全体	885	100.0	719	100.0

Q14	あなたは、エイズについてどのような印象をお持ちですか。あてはまるものをこの中からすべてお選びください。複数回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	死に至る病である	2,741	48.4	2,377	42.0
2	原因不明で治療法がない	1,568	27.7	1,418	25.0
3	特定の人たちにだけ関係のある病気である	570	10.1	560	9.9
4	上記1～3のどれも当てはまらず、不治の特別な病だとは思っていない	1,007	17.8	1,218	21.5
5	毎日大量の薬を飲まなければならない	872	15.4	932	16.5
6	仕事や学業など、通常の社会生活はあきらめなければならない	231	4.1	184	3.2
7	あてはまるものはない	727	12.8	817	14.4
	全体	5,665	100.0	5,665	100.0

Q15	HIVやエイズの治療方法は急速に進歩していますが、あなたはHIV・エイズに関する最新の情報を知っていますか。知っているものをこの中からすべてお選びください。複数回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	適切に治療することにより、他人へ感染させる危険性を減らすことができる	2,245	39.6	2,194	38.7
2	適切な治療を行えば、HIVに感染しても、感染していない人とほぼ同じ寿命を生けることができる	1,619	28.6	1,655	29.2
3	治療方法は進歩しているが、完治させることはできず、薬を飲み続けなければならない	1,722	30.4	1,676	29.6
4	薬の副作用はほとんどなく、通常の社会生活を送ることができる	439	7.7	506	8.9
5	治療薬には1日1回の服薬で済むものもある	215	3.8	280	4.9
6	適切な治療を受けており体内のウイルス量を低値に抑えられているHIV感染者との性行為による感染はほぼない	141	2.5	189	3.3
7	父母のいずれか、または両方がHIV感染者の場合でも、子供に感染することなく妊娠・出産できる方法がある	498	8.8	483	8.5
8	この中に知っている情報はない	2,002	35.3	2,068	36.5
	全体	5,665	100.0	5,665	100.0

Q16	あなたは、HIV感染者やエイズ患者の友人・知人・親類がいますか。単一回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	いる	44	0.8	34	0.6
2	いると思う	72	1.3	93	1.6
3	いないと思う	1,831	32.3	1,664	29.4
4	いない	2,963	52.3	3,041	53.7
5	わからない	755	13.3	833	14.7
	全体	5,665	100.0	5,665	100.0

Q17	あなたはHIV検査を受けたことがありますか。単一回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	ある	838	14.8	614	10.8
2	ない	4,827	85.2	5,051	89.2
	全体	5,665	100.0	5,665	100.0

2020年Q18	検査を受けたことがないと答えた方にお聞きします。 受けない理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。複数回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	どのような検査か分からない			1,429	28.3
2	どこで受けられるか分からない			1,270	25.1
3	お金がない			531	10.5
4	時間がない			333	6.6
5	プライバシーが守られるか不安			298	5.9
6	HIVに感染しているとは思わない			2,556	50.6
7	関心がない			421	8.3
8	陽性だと分かるのが怖い			164	3.2
9	その他【 】			66	1.3
10	特に理由はない			1,072	21.2
	全体			5,051	100.0

2020年Q19	どうしたらHIV検査が受けやすくなると思いますか。あてはまるものを3つまでお選びください。 複数回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	すぐに結果がわかる			2,198	38.8
2	繁華街の一角で受けられる			330	5.8
3	検査料金が安いまたは無料			3,246	57.3
4	健康診断の一部として選べる			3,070	54.2
5	祝祭日・日曜に受けられる			420	7.4
6	駅の近くで受けられる			194	3.4
7	夜間に受けられる			247	4.4
8	郵送で受けられる			978	17.3
9	窓口でHIVと言わなくても受けられる			901	15.9
10	事前電話予約で、予約時も当日も名前を名乗る必要はない			295	5.2
11	事前ネット予約で、予約時も当日も名前を名乗る必要はない			780	13.8
12	その他【 】			65	1.1
	全体			5,665	100.0

2020年Q20	ここ2年間にHIV/エイズに関する情報に接しましたか。 単一回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	接した			345	6.1
2	接したと思う			575	10.2
3	接していないと思う			1,268	22.4
4	接していない			3,143	55.5
5	わからない			334	5.9
	全体			5,665	100.0

2020年Q21	前問で接したと答えた方にお聞きします。 どのような媒体で接しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。複数回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	テレビ			336	36.5
2	ラジオ			66	7.2
3	新聞			128	13.9
4	雑誌			51	5.5
5	インターネット			323	35.1
6	SNS			103	11.2
7	ポスター			59	6.4
8	パンフレット			43	4.7
9	学校の授業			256	27.8
10	自治体の広報紙			56	6.1
11	友人・知人から			46	5.0
12	その他【 】			71	7.7
13	覚えていない			21	2.3
	全体			920	100.0

2020年Q22	引き続き、ここ2年間にHIV/エイズに関する情報に接したと答えた方にお聞きします。 HIV/エイズに関するどのような情報に接しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。 複数回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	日本のHIV/エイズ患者数について			376	40.9
2	世界のHIV/エイズ患者数について			229	24.9
3	途上国のエイズ蔓延について			100	10.9
4	HIV/エイズは死の病ではなくなった			247	26.8
5	適切な治療によりHIVは性行為で感染することはない(U=U)			109	11.8
6	HIV感染予防方法について			331	36.0
7	HIV検査について			258	28.0
8	HIV/エイズで亡くなった有名人について			149	16.2
9	世界エイズデーについて			234	25.4
10	その他【 】			33	3.6
11	覚えていない			68	7.4
	全体			920	100.0

2019年Q18 2020年Q23	あなたが出生時に戸籍や出生届に記載された性別は何ですか。 単一回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	女性	3,338	58.9	3,293	58.1
2	男性	2,327	41.1	2,372	41.9
	全体	5,665	100.0	5,665	100.0

2019年Q19 2020年Q24	あなたが現在自認している性別は何ですか。 単一回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	女性	3,319	58.6	3,250	57.4
2	男性	2,304	40.7	2,351	41.5
3	女性・男性のどちらでもない	14	0.2	32	0.6
4	その他【 】	1	0.0	3	0.1
5	わからない	27	0.5	29	0.5
	全体	5,665	100.0	5,665	100.0

2019年Q20 2020年Q25	あなたがこれまでに性行為を行ったことがある相手はどんな方ですか。あてはまるもの1つをお選びください。単一回答	2019年1月		2020年12月	
		N	%	N	%
1	女性のみ	2,055	36.3	2,055	36.3
2	男性のみ	2,755	48.6	2,640	46.6
3	男女両方	78	1.4	101	1.8
4	いずれもない	777	13.7	869	15.3
	全体	5,665	100.0	5,665	100.0